

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (25)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

メキシコ国境の目下建設中の壁は Trump 大統領の元々の公約であり、来たる 11 月 3 日 (火) の大統領選(presidential election)を前にさらに建設を進めていきたいという強い思いを彼はもっている。この壁は言語的には、いわば「英語 (アメリカ語) とスペイン語を分ける壁(Wall)」などという言い方もできるかもしれない。歴史的にはアメリカ・メキシコ戦争(英語：Mexican-American War) [1846-48] 以前は、今日のアメリカ南部 Texas 州・New Mexico 州、そして西部 California 州・Arizona 州・Nevada 州などはメキシコの領土であったわけで、スペイン語を話す Hispanics (スペイン人) の土地であった。元々は彼らスペイン人の生活の地であったということである。

筆者が米国の大学院で英語言語学の研究留学中にメキシコ系の友人が、カリフォルニアのことを This was OUR land! (スペイン語：¡ Ésta era NUESTRA tierra !) と言ったことが印象的に記憶に残っている。彼の親はスペイン語話者で、彼は二世であった。

地名の San Francisco, San Diego, Los Angeles はもちろんスペイン語で、それぞれ「聖フランシスコ」、「聖ディエゴ」、「天使たち」の意味であるし、新大陸アメリカ西部・南部は Hispanic 的な風土と香りをもつ最もアメリカ的な土地と言える。州名の California は、14-16 世紀半ばまで栄えたメキシコのアステカ王国(Aztec Kingdom)を滅ぼした歴史上有名なスペイン軍人 Hernán Cortés (エルナン＝コルテス) の命名である。スペイン語で「空想的黄金の国」の意味であった。また、California の州都ですっきりした街並みの広がる Sacramento は「聖なるもの」、シエラ山脈のある Nevada 州の nevada は「雪のかぶった」、コロラド川の流れる Colorado 州の colorado とは「色のついた」の意味のそれぞれスペイン語である。Arizona 州の雄大なグランドキャニオン(Grand Canyon)からはるか下を流れるコロラド川を眺めたことがあるが、濁った褐色である。

メキシコ国境の壁は筆者には改めて開拓時代のアメリカ・メキシコ戦争の時代や西部劇映画の主題を想起させると同時に、英語 (アメリカ語) とスペイン語の「言語戦争」(Word War)の砦？さえイメージ化させる。16 世紀末にスペインの無敵艦隊(スペイン語：la Armada Invencible / 英語：the Invincible Armada)がイギリスに敗退するまではスペイン語はまさに世界を支配する言語であった。もしそのときスペインが勝っていればスペイン語が今日の英語のようなものとなっていたはず、とはよく言われることである。

今日、アメリカの言語事情はスペイン語話者の数が、かつてよりさらに増え特に西部・南部は英語(American)もスペイン語(Spanish)も見方によってはまるで同じ？という感じとともに、スペイン語優勢？となりつつもある。中米から大量の移民集団がメキシコ国境を越えアメリカ側へ入ってくれば [Trump 大統領はこれを invasion (侵入) とも言っているが] 英語 (米語) に取って代わり、アメリカ大陸の北米(U.S.A)・中米・南米は (南米のポルトガル語の国ブラジルは別にして) すべてスペイン語の国(Spanish-speaking countries)となる？今日の世界で母国語としてのスペイン語話者は 4 億人を超え、すでに英語のそれより多かろう (英語は第 2 言語としての話者が多いわけである)。アメリカで外国語といえばほぼスペイン語のことで、学生の外国語履修もまるでスペイン語である。スペイン語が堪能であると就職が有利と言われもする。

いずれにせよ、すでに昨年2月に本連載(9)で触れたが、メキシコ国境の壁建設費〔57億ドル(約6,300億円)と言われていた〕に関し野党民主党から合意がえられず、Trump大統領は連邦政府機関の一部閉鎖までを強行し予算を捻出しようとする手法をとった。過去最長となる政府の閉鎖状態がつづき、White House は閑散としていたわけである。民主党は壁建設を不道德なものとし、医療・教育・環境問題等に重点を置いている。

このあたりに関連し、まずは次の(1)の tweet 例を見てみる。(2)は冒頭で言ったように、すべては次期大統領選での再選へ向けての昨年1月の段階での Trump 大統領の思いであり、それが集約されたような tweet である。ただ、彼は本年3月以降、新型コロナウイルス問題で国内の経済活動の面で予期しなかった流れに悩まされることともなった。

(1) Democrats should come back to Washington and work to end the Shutdown, while at the same time ending the horrible humanitarian crisis at our Southern Border. I am in the White House waiting for you! (January 12, 2019)

▲またも通信文の基本的意味構造から、内容を3つの深層意味素により理解すれば、**i) ABOUT** : 南部のメキシコ国境、**ii) BECAUSE** : 恐怖の人道危機にあり、政府閉鎖は解除してもよいので、**iii) PLEASE** : 民主党議員は Washington D.C.へ戻り職務に就いてもらいたい。自分は White House で待っている。

まずは太線語 crisis (危機)を見ておこう。接尾辞-sis からギリシャ系の語であることは分かるが、実はこれはラテン系の Basic 語 **credit** や **crime** などと同系なのである。glossematics (言理学・言語素論) を母体に考える morphophonemic [形態音素論(MP)的] / morphoglossemic [形態言素論(MG)的] (本連載(12)、前回の(24)参照)に見る印欧祖語 PIE の etymon (語根原形) は、すでに本連載(10)の(2)で扱った/KREI/である。原義は「区分けして判断すること」で、元々は穀物の選別・ふるい分けの意味から来た。crime (犯罪) も、法的に罪となるか否かには明確な一線(岐路)がある。他の Basic 語 **secret, secretary**、un-Basic 語 discriminate (差別する)、critical (重大な)、critic (批評家・評論家)なども同系〔さらに他の例は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(128)参照〕。

下線部 while at the same time ... -ing は後置分詞構文(post-positional participial construction)で、時間の同時性を意味する言い方として重要である。

下線語 humanitarian の語頭音に関し触れておくが、こういうラテン系の語は[h]音がしばしば消失もし、[hju:]ではなく[ju:]音ともなる。human[hjú:mən]も[jú:mən]、また Basic 語の **humo(u)r** [hjú:mə]も[jú:mə]と[h]音が消失もするが、これがカタカナ語のいわゆる「ユーモア」となった。ラテン系言語スペイン語などには氣息音[h]はない(スペイン語には摩擦音[x]音はある)。ラテン系民族の耳には [h]はよく聴こえない音ということになる。

さらに関連して言えば、historical などの語頭の[h]音も消失し[istɔˈrɪkəl]ともなる。したがって、たとえば an historical analysis of English words (英語語彙の歴史的分析)のように不定冠詞が a ではなく an ともなることがあるが、何もおかしくはない。ただし、第1音節に強勢のかかる history では氣息音[h]の消失は起こらない。

ところで本年、世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症がなぜ西洋、それも特にアメリカで多いか?である。麻生太郎財務相が日本に少ないのは「民度」の違いだと言ったと報道され話題ともなったが、どうだろうか? 民度とは国民の生活態度、民族文化、文明の程度などのことであるが、一般に気づかれず注目されないのが実は英語の音声で

ある。clinical linguistics (臨床言語学) 的に、言語を発する際の人間の発音法・呼吸法が飛沫感染の謎の要因 (いわゆる **Factor X: 第 X 因子**) の 1 つであろうことは指摘しておきたい。本連載(22)で、中世の時代に感染症のペストが原因で英語史上で有名な大母音推移(**Great Vowel Shift**)が起こったことに言及したが、アメリカ英語 (米語) 音では息が多量に吐かれ、投息され、氣息音化([^h])、鼻音化([^ɱ])が支配的に起こる。飛沫の発散する割合はアジア系言語音の比ではない。日本語音は下にポロポロと弱々しく落声する。終戦後の 1946 年に横浜に進駐していた米軍人に喘息 (ぜんそく) が蔓延したが日本人には広がらなかったというデータがある。これは「横浜喘息」として知られるが、やはり英語音と日本語音を発する際の息の出し方・呼吸法の違いも一因と考えられる。いずれにせよ、専門の研究者は少ないが英語音声の臨床言語学的で学際的な理論研究が期待される。

下線の空間詞 **at our Southern Border** の **at** は **on** でもまったく問題ないが、**Trump** 大統領はほとんど **at** を用いる。これはやはり彼がメキシコ国境の壁建設には特別な思いがあるため、無意識にも **at** となるのかもしれない。**at** のほうが、焦点が定まる。緊迫感があるようなニュアンスも含むので、たとえば **be surprised at ...** と **at** となるのも驚きには突然さがあるからである。**by** や **about** はその意味がやや弱くなる。

最後の下線の文 **I am in the White House waiting for you!** には注目しておいてよい。これは本連載(7)の①で仮説的に触れたことと関わる。この場合 **in the White House** の前に **deictic** (直示的) な語<**here**>を補ってみれば、**I am here in the White House waiting for you!** となるが、後ろの **waiting** は状態で付帯状況的な描写と言える。これは **I am waiting for you in the White House!** とは微妙なニュアンスの差も感じられる。

(2) For decades, politicians promised to secure the border, fix our trade deals, bring back our factories, get tough on China, move the Embassy to Jerusalem, make NATO pay their fair share, and so much else — only to do NOTHING (or worse). I am doing exactly what I pledged to do, and what I was elected to do by the citizens of our great Country. Just as I promised, I am fighting for YOU! (January 14, 2019)

▲**Trump** 大統領の思いは、今もこの **tweet** でカバーされている。「何十年も政治家はメキシコ国境の壁、貿易取引、国内の工場回復、中国へ向けた断固とした対応、エルサレムへの大使館移転、NATO (北大西洋条約機構) のフェアな出資、その他諸々の懸案を約束したが結局は何もしなかった。それどころか悪化させた。自分は公約どおりのことを実行している。偉大なる国家たる米国の市民により、実行するために選出されたことをやっている。この公約実行のため、“皆さん”のために戦っている！」と言っている内容である。この **tweet** の **i) ABOUT, ii) BECAUSE, iii) PLEASE** はもう明らかである。

太線語 **promise** の語根部 **mise** は、文献によって異形もあるが、**PIE etymon** の **morphophoneme**「形態音素形(MP)」／**morphoglosseme**「形態言素形(MG)」が/(S)MEIT/とされ、原義は「to send (投げかけること)」である。末尾音素/T/からすれば[t]音をもつ語があろうと推測もできるが、この **promise** は実は **Basic 語 committee** と同系である。**un-Basic 語**では **permit, omit, emit, remit, commit, etc.** が[t]音をもつ同系語として一括される。**プラスα Basic 語**では **transmission**、さらに **un-Basic 語**の **message, missile, mission, dismiss, etc.** もこの系統語である。**promise** は {**pro** (= before) + **mise** (= to send)}ということになる〔このあたりは同上拙著、第二部、例(108)参照〕。

次の太線語 **else** は **PIE etymon** の **morphophoneme(MP) / morphoglosseme(MG)**が

/AL/とされ、Basic 語の **parallel**、プラス α Basic 語の *altar* [供え物を置く祭壇 <備考> 同上拙著 p.237 の語表中の *alter* は同系語ではあるにせよスペリングのミス]、un-Basic 語の *alter* (交替する)、*alternate* (交替させる・交互にする)、*alibi* (アリバイ)、*alien* (異人)、*alarm* (驚き) などが同系語で、原義は「別な方へ向けること」である。*adult* (大人) も同系とする文献もある。なお、*alarm* は ‘To arms!’ 「武器を取れ！」からも来ている [同上拙著、第二部、例(31)解説参照]。

最後の太線語 *exactly* の *exact* は形容詞としてのプラス α Basic 語で、この語中には Basic 語 **act** が組み込まれている。*exact* は {ex (= out) + act} から ‘act out’ というこ
とで、「行動を起こすこと」である。Basic 語 **reaction** や本連載(1)の⑦で扱った形容詞の
プラス α Basic 語 *active* はもちろんのこと、un-Basic 語 *actual* (実際の) も同系である。
PIE etymon の MP (形態音素形) / MG (形態言素形) は/AG/として復元されているの
で[g]の音をもつ語に同系語があるはずとなるが、un-Basic 語 *agony* (苦痛)、*examination*
(調査) などがその例となる。さらに[dʒ]の音ともなった *agitate* (扇動する) も同系 [こ
のあたりは同上拙著、第二部、例(119)参照]。

(演習) 本連載(21)～(25)より

次の a) ～ (o) の語は、下の① ～ ⑮の Basic 語 (イタリック体はプラス α Basic 語) の
どれと同系か。音感からの意味の感知であり、瞬時に正解したい。

- a) annex b) intonation c) Aryan d) mouse e) razor f) quarantine
g) casual h) cap i) involve j) glorious k) grammar l) matter
m) discriminate n) message o) actual

* * *

- ① **army** ② **chance** ③ **committee** ④ **crime** ⑤ *exact* ⑥ **gold**
⑦ **keep** ⑧ **mother** ⑨ **muscle** ⑩ **near** ⑪ *program* ⑫ **rat**
⑬ **square** ⑭ *tent* ⑮ **wall**

[正解]

a) ⑩	b) ⑭	c) ①	d) ⑨	e) ⑫	f) ⑬	g) ②	
h) ⑦	i) ⑮	j) ⑥	k) ⑪	l) ⑧	m) ④	n) ③	o) ⑤

* こういうものはカードを用い、いわゆる「カルタ取り」で確認する手法もある。PIE etymon の
morphophoneme (MP: 形態音素形) / morphoglosseme (MG: 形態言素形) [同上拙著で 150 種を
提示した] を記したカードも同時に用意しておき適宜、確認をするのもよい。